

第3回東大阪市新水道ビジョン懇話会（書面会議） 会議録

1. 開催概要

期 間	令和2年8月24日（月）～8月30日（日）【書面開催】
議 事	（案件1）施策推進に向けた取り組みについて （案件2）「新水道ビジョン素案たたき台」について
配布資料	資料-1 第3回 東大阪市新水道ビジョン懇話会 説明資料 資料-2 新水道ビジョン素案たたき台 別添-1 第3回東大阪市新水道ビジョン懇話会書面会議に係る意見について 参考-1 第2回懇話会議事概要 参考-2 第2回懇話会会議録 参考-3 東大阪市新水道ビジョン体系図（案） 参考-4 東大阪市新水道ビジョン施策一覧表（案）

2. 各案件に対する意見および回答

① 【案件1】 施策推進に向けた取り組みについて

No	意見または質問	回 答 等	該当箇所
1	<ul style="list-style-type: none"> Pages 9, 10 について：東大阪市では水消費量のほとんどが買い水であるにもかかわらず、石切高・低区の浄水場が建設された背景には何らかの重要な理由や意義があったものと予想します。今般、石切高・低区においても買い水に移行することを企図されていますが、そのことによる建設当時の意義を損なうような弊害はありませんか。 	<ul style="list-style-type: none"> 石切高区・低区浄水場は本市水道事業の拡張期において、増加する水需要への対応が求められていた中で水源・水量の安定性を高める必要があったことから、近鉄奈良線・けいはんな線トンネル湧水を利用して整備された背景があります。現在は建設当時より水需要が減少しており、浄水が無くても安定した配水が可能であり、将来の水需要は益々減少していくと推計されるため、水需要への対応という整備当時の意義は果たしたと考えられます。そのため、危機管理能力を確保しつつコストを削減し、効率的な運営を推進するために取り組むものです。 	資料-1 P.9,10
2	<ul style="list-style-type: none"> Pages 10-12 について：石切高区の浄水場の配水池化が企図されています。これは今検討すべき事項でしょうか。すなわ 	<ul style="list-style-type: none"> 石切高区浄水場の敷地内には、浄水施設と配水池があります。今回は、この浄水施設を廃止し、配水池のみにするというも 	資料-1 P.10-12

No	意見または質問	回 答 等	該当箇所
	<p>ち、Page.12 のグラフより、今後 10 年(2021 年から 2030 年)の浄水場更新費用は、約 1 億 5 千万ですが、浄水場更新費用>配水池化費用(内訳は?)でしょうか。</p>	<p>のです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 配水池化するための費用は、基本的に浄水施設撤去程度であるため、浄水場更新費用>配水池化費用になると考えています。 配水池化することにより、浄水施設の更新費用(34 億円/100 年)及び維持管理費用(13 億円/100 年)削減につながります。 	
3	<ul style="list-style-type: none"> Page 13 について：ダウンサイジングする場合とダウンサイジングしない場合の費用の差はどれくらいでしょうか。ダウンサイジングすることによる弊害はないのでしょうか(例えば防災面)。 	<ul style="list-style-type: none"> ダウンサイジングの効果額については、現在検討中ですので、結果が整理でき次第報告させていただきます。 基本的には、高度経済成長期に建設され、現在では能力に余裕のある施設を、将来の水需要に合わせて見直していくことを考えています。 今後の水需要を考慮して、平常時に加え、非常時でも給水できるようシミュレーションを実施し、水運用及び対応に支障の無い範囲でダウンサイジングを実施していきます。 	資料-1 P.13
4	<ul style="list-style-type: none"> Page 14 について：菱屋西配水場を廃止しても他の配水池により配水能力が確保できる根拠を説明してください。 	<ul style="list-style-type: none"> 現状(H30)の市全体の一日最大給水量は約 17.3 万 m³/日ですが、本市水道施設の配水能力の合計は 28.1 万 m³/日であり、菱屋西配水場(配水能力 3.1 万 m³/日)を廃止しても市内給水量に対して余力が残っている状況です。 菱屋西配水場を廃止した場合の管網解析シミュレーションを実施し、市末端部まで水圧を確保しつつ配水できることを確認しています。 	資料-1 P.14
5	<ul style="list-style-type: none"> Page 24 について：菱屋西配水場の廃止を企図されているのであれば、菱屋西配水場の耐震化を考慮する必要はないのではないのでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ご意見のとおり菱屋西配水場を廃止すれば耐震化する必要はありません。現状で耐震性の無い施設を示し、対策が必要であることを示すことを意図していましたが、今後はわかりや 	資料-1 P.24

No	意見または質問	回 答 等	該当箇所
		すい表現に改めさせていただきます。(廃止もその対策の一つと考えています)	
6	<ul style="list-style-type: none"> Page 33 について：2028 年には資金ショートしてしまうという予想には大変驚きました。これは今回資料で示された浄水場の配水池化などの改変を何も行わなければという仮説での試算でしょうか。今回の改変を行った場合と行わなかった場合の支出と収入のグラフを見てみたいです。 	<ul style="list-style-type: none"> このシミュレーション結果は、現状の施設をそのまま更新した場合のものであり、今回お示した改変（統廃合やダウンサイジング）を反映したものではありません。 改変を行った場合の収支・効果については現在検討中であり、結果が整理でき次第報告させていただきます。 	資料-1 P.33
7	<ul style="list-style-type: none"> 横浜市や岡崎市、夕張市のように東大阪市がPFIを導入については議論されていらっしゃるでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在、本市水道事業においてPFI 導入を検討しているものはありませんが、今後の水道施設整備事業等において、東大阪市 PPP/PFI 優先的検討方針に則り、優先的検討の対象となる公共施設整備事業に該当するものは、適切な PPP/PFI 手法を検討して導入していくことになると考えています。 なお、コンセッション（公共施設等運営権）制度による水道事業の運営は現在のところ考えておりません。 	—
8	<ul style="list-style-type: none"> 市民は水道のありがたさ、使い方、東大阪市が大阪広域水道企業団から水を買っていること及び下水道使用料と一括で支払っていることをあまり理解しておらず、料金が高いと言っていると思います。東大阪市は設備投資に今後まだまだ費用・施策が必要な状況ですので、市民にとってプラスの印象となる取り組みをPRしつつ、料金値上げも必要と思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ご意見のとおり、老朽化した水道施設の更新や耐震化には多額の費用が必要であるため、資料1の32ページに記載したように、今後もコストの縮減等に努めた上で、適正な水道料金への見直しなどにより、事業運営に必要な収入を確保できるよう努めます。 ご意見のとおり、お客さまへの情報発信・PR は重要と認識しており、資料1の41ページに記載したように、水道事業の取り組みを発信し、理解を深めていただけるよう努めていきます。 	資料-1 P. 32～ 34,41
9	<ul style="list-style-type: none"> 設備の維持や防災を考えるに際しては、膨大な埋設管の現状 	<ul style="list-style-type: none"> 本市では施設・管路の情報は地理情報システム（GIS）等にて 	—

No	意見または質問	回 答 等	該当箇所
	<p>が把握・管理されていなければなりません。少なくとも、安全・強靱と持続のバランスを保ちつつ適切な設備管理が行われないと、将来的に安定した水道事業の維持が困難になってきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 一番気になるのは、水道設備、特に地中に埋設されている管路の健全性をどのように診断し保全・更新計画が策定されているのか、そしてそれがコスト的に整合が取れているのかということです。漏洩時の復旧工事に際して得られた知見や管路の耐用年数をもとに、計画的に更新がなされていくようですが、そこに合理性が見当たりません。 • 従来メンテナンスは異常があってから対処し故障を直すものでしたが、現在は設備の状況を適切に診断することにより、異常の兆候を捉えて計画的に保全する予防保全がIoTによってさらに進化し精密にしてタイムリーに行われるようになってきています。今般のビジョンにおいて、設備を見直したり強化するというものはある程度イメージが湧くのですが、サービスを含めて管理面がどのようになっていくのかが見当たらないように感じます。 	<p>把握・管理しており、市内全管路の漏水調査を2か年で巡回して実施しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 管路の保全・更新計画は、設置年度、事故危険度及び耐震性等を考慮した物理的評価及び重要度によって優先順位を設定し、予防的・計画的に更新を進めていく予定です。また、引き続き定期的な点検調査による健全性の診断・把握することも重要な取り組みであると認識しています。 • 適切な維持管理については、施策⑤の「水道施設の適切な更新・維持管理の推進」の中に含まれており、ビジョンの中で具体的な取り組みをお示しします。 • また、ご意見のとおり、水道管路の点検調査技術も年々進歩していることから、最新の技術動向を踏まえた方法の検討やIoT・AIを活用した維持管理及び劣化診断なども検討していきたいと考えております。 	

② 【案件 2】「新水道ビジョン素案たたき台」について

No	意見または質問	回 答 等	該当箇所
1	<ul style="list-style-type: none"> 「すこやか」を辞書で引くと、「からだが丈夫で元気なさま。心身が健全であるさま」です。「すこやか」という言葉はヒトの心身に対する形容詞で、「水道」との親和性は低く、一般市民から見るとしっくりこない組み合わせです。「健全な」は「経営」などヒト以外にも使用するので、まだ「健全な水道」の方が分かりやすいように感じます。 	<ul style="list-style-type: none"> 現行の水道ビジョン基本理念「すこやかな(健全な)上水道」からの引き継ぎ及び親しみやすさから、「すこやか水道」と設定しましたが、ご意見を踏まえ再度検討させていただきます。 	資料-1 P.49
2	<ul style="list-style-type: none"> Page 50 について:「安全・安心・安定の信頼される水道」という表現は、「災害に備えた強靱な水道」(安全・安心・安定)、「健全な経営を維持できる水道」(安定)を包含しているように思います。東大阪市の言う「健全な上水道」とは「安全・安心・安定な上水道」と解釈できると思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ご意見のとおり、3つの将来像はそれぞれ密接に関連するものであり、内容について切り分けることが難しいところもありますが、本ビジョンの将来像に対する施策の整理方法は、日常・災害・将来への対応を考慮し、次のとおり考えています。 ◆「安全・安心・安定の信頼される水道」:お客さまに日常的に安全・安心な水を安定してお届けするための施策 ◆「災害に備えた強靱な水道」:災害に備え、生活を守る防災・減災のための施策 ◆「健全な経営を維持できる水道」:経営・組織の強化・効率化、サービス向上及び環境配慮により将来へ事業をつなげるための施策 	資料-1 P.50
3	<ul style="list-style-type: none"> Page 50 について:ビジョンは市民に向けて発信するものであるため、「強靱」という言葉が市民には難しいように思います。「災害に強い水道」の方が市民に馴染むのではないのでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 「強靱」は厚生労働省新水道ビジョンの基本目標にも設定されており、その意味は「しなやかで強いこと、柔軟でねばり強いこと」であり、災害に対して被害が生じない、生じても迅速に復旧するという水道の防災・減災の方針を表すために適していると考えています。また、近年、国が推進する「国土強靱化」もあり、お客さまにも一定の理解が得られるものと考え 	資料-1 P.50

No	意見または質問	回 答 等	該当箇所
4	<ul style="list-style-type: none"> Page 51 について：健全な経営を持続できる水道の実施方法として、例えば、「公助、共助、自助による適切な上水道運営」のような官民連携に関する記載をする必要はないですか？ 	<p>ています。</p> <ul style="list-style-type: none"> 官民連携は資料1の6ページに記載のとおり、将来像「健全な経営を持続できる水道」の実現方策「組織運営の強化・効率化」に関する施策の1つとして「広域連携・官民連携の推進」を設定しております。資料1、36 ページにも取り組みを記載しておりますが、さらなる民間活力の利用を検討してまいります。 	資料-1 P.51
5	<ul style="list-style-type: none"> 既に検討中かもしれませんが、各施策あるいは取り組みに対して、進捗状況や成果を簡単かつ的確に評価できる定量的な指標とその達成目標をできる限り示してください。例えば「水道水質の維持・向上」に関しては、活用できる定量指標がたくさんあると思います。各施策が単なる決意表明とならないようご留意下さい。また、重点施策④のように、ビジョンの期間を超えるような長期にわたる施策については、最終的な目標も併せてご提示頂けると、目指すところが明確となり、分かりやすいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> 策定したビジョンの進捗管理および目標達成の評価のために、施策ごとに定量的な評価指標（水道事業ガイドライン等）を設定し、ビジョンの達成目標の見える化を行います。また、特に重点施策に関連する指標はKPI（重要業績評価指標）として設定し、メリハリをつけた目標の管理を行います。 また、20～30年の長期にわたる施策については、長期的な目標値（最終目標）も併せて示していきたいと考えています。 	—
6	<ul style="list-style-type: none"> 重点施策の中にはきわめて技術的専門性の高い内容が多く含まれます。一般住民の方が簡単に理解できるよう、図表を多用するなどして、なるべく分かりやすいビジョンの作成を心がけてください。 	<ul style="list-style-type: none"> ご意見のとおり専門的な内容も多く含まれるため、お客さまに本市の水道事業の取り組みをご理解いただけるよう、内容的・視覚的にもわかりやすいビジョンの作成に努めます。 	—